

小田原市デジタル田園都市構想総合戦略のKPI達成状況

No.	位置づけ	目標・KPI	単位	方向性	単年・累計	基準年	基準値	【目標】		【実績】		評価	実績値の考察	補足説明等	所管課
								R6	R9	R5	R6				
【基本目標1】 稼ぐ地域と安定した雇用をつくる															
1	KPI:1-①	経営相談窓口の相談件数	件	↑	単年	令和2年度	210	260	260	241	347	S	資金繰りにかかる融資制度や事業効率を高める事業計画作成にまつわる相談などに加え、創業希望者からの相談も増加傾向にあります。		産業政策課
2	KPI:1-②	立地企業の市民雇用数	人	↑	累計	令和2年度	92	234	295	102	128	C	基準値と比べ雇用増となっていることは一定の成果でした。ただし目標値には及びませんでした。目標値は、進出企業の市民雇用数の実績から、1社当たりの平均市民雇用数を算出し、目標値を設定したが、特出して市民雇用数が多かった企業の実績が平均市民雇用数を引き上げる結果となり、過大な目標値の設定となっており、次回改定時の課題と捉えています。		産業政策課
3	KPI:1-②	テレワークやワーケーションができる場所	箇所	↑	累計	令和2年度	11	40	70	20	21	C	目標値には達していませんが、基準値からの増加により、事業者の目的や好みなどにあった場所を選んで、テレワークやワーケーションができる環境が整えられつつあります。		産業政策課
4	KPI:1-③	農業算出額	億円	↑	単年	令和元年度	38.1	38.5	38.7	37.8	－	－	農産物のブランド化や農産物のPR等に加え、スクミリンゴガイや有害鳥獣の駆除等の農産物への被害軽減の取組は、農業算出額の増加に寄与すると考えています。	令和6年度実績値は令和7年度末公表予定です。	農政課
5	KPI:1-③	小田原産木材の流通量	m³	↑	単年	令和2年度	4,200	5,500	5,500	5,988	－	－	水源環境保全税を原資とした森林整備事業が着実に進み、森林組合や県事業による素材生産量が増加したことや、小田原産木材の需要が拡大していること等により、令和5年度時点では目標値を上回る実績となったと考えられます。	令和6年度実績値は県の通知待ちです。	農政課
6	KPI:1-③	小田原漁港の水揚げ量	t	↑	単年	令和2年度	2,816	2,895	2,954	3,159	3,377	S	自然環境の影響が大きい目標・KPIですが、安定的な生産活動への支援や小田原の水産物のPRなどが実績値に繋がっていると考えています。		水産海浜課
【基本目標2】 魅力を発信し、人の流れをつくる															
7	KPI:2-①	移住相談件数	件	↑	単年	令和3年度	368	385	400	444	400	S	基準値を上回り、令和9年度の目標値と同数となりました。これまでの施策に加え、新たに始めたオンラインコミュニティなどの施策が結果を出していると考えています。		企画政策課
8	KPI:2-②	小田原駅周辺流動客数	人	↑	単年	令和2年度	111,838	128,000	129,920	117,362	122,949	B	令和4年度108,599人、令和5年度117,362人であることから、目標値の令和9年度129,920人に向けて着実に増加しています。		商業振興課
【基本目標3】 子どもを産み育てやすい環境をつくる															
9	KPI:3-①	児童相談対応件数	件	↑	単年	令和2年度	299	438	582	538	734	S	令和2年4月に「はーもにい」を開設したことに加え、令和5年4月に母子保健機能を統合し、妊娠期から育壮年期までの相談支援機能を集約したため、周知や関係機関との連携が進んだことなどが相談件数の増加につながっています。		子ども若者支援課
10	KPI:3-②	待機児童数	人	↓	単年	令和3年度	5	0	0	9	3	C	各年度で増減があるものの、順調に待機児童は減少しています。引き続き、民間保育施設の整備支援による受け皿の確保や、保育コンシェルジュを活用し、保護者ニーズと保育サービスを適切に結びつけ、一人でも多くの児童が入所できるように取り組みます。	待機児童とは、入園資格があり、保育施設に申し込みをしているが、施設が定員に達しているなどの理由で、保育施設を利用できていない児童のことです。保留児童に包含されています。	保育課
11	KPI:3-③	国語の授業がわかると感じている児童生徒の割合	%	↑	単年	令和3年度	81.2	90.0	90.0	85.6	85.0	C	個に応じた学習の工夫・支援が、徐々に学習内容の定着につながっています。		教育指導課
12	KPI:3-③	算数・数学の授業がわかると感じている児童生徒の割合	%	↑	単年	令和3年度	77.9	89.0	89.0	77.1	79.2	D	急激な数値の向上は難しい目標ですが、基礎からの積み重ねが必要な教科であると捉えています。		教育指導課
【基本目標4】 活力にあふれ、住み続けたいなるまちをつくる															
13	KPI:4-①	24時間365日安心して医療が受けられる体制が整っていると思う市民の割合	%	↑	単年	令和3年度	62.3	70.0	77.7	62.0	62.2	D	様々な取組が市民にしっかりと伝えられていないことが要因にあると考えています。		健康づくり課
14	KPI:4-①	多機関連携による支援件数	件	↑	単年	令和2年度	5	20	20	3	9	C	体制づくりにより数値は着実に伸びています。複数の支援機関が連携しなければ対応が困難な複雑・複合化した課題を抱える事例が増加しています。		福祉政策課
15	KPI:4-①	脳血管疾患による死亡率(対人口10万人)	人	↓	単年	平成30年	101.5	91.7	88.9	－	－	－	令和4年度実績値は、108.9人と上昇しました。令和2年から令和5年まで新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、健診の受診控えや健康づくりの取組の中止などが大きく影響していると考えられます。	最新値は3年遅れで発表されるため即時的な評価が見えにくい状況です。	健康づくり課
16	KPI:4-②	小田原三の丸ホール来場者数	万人	↑	単年	-	-	50	50	32	35	B	大小ホール、展示室の稼働率は8割程度を維持していることから、目標値達成には他のソフト事業との連携の実施など、三の丸ホール単独での増加は限界があると感じています。		文化政策課
17	KPI:4-②	住宅の耐震化率	%	↑	単年	令和2年度	90.0	95.0	96.2	91.6	92.1	C	旧耐震基準の木造住宅の居住者(所有者)は、高齢者が多く耐震改修費用も高額となるため、耐震化が進まない状況です。		建築指導課
18	KPI:4-②	市民学校卒業生・修了生の担い手実践活動人数	人	↑	累計	令和2年度	36	251	413	189	235	B	目標をやや下回ったものの、市民学校の取組や事業見直しにより、安定的な受講希望があり、卒業生・修了生の実践活動につながりました。		生涯学習課
19	KPI:4-③	市内の再生可能エネルギー導入量	千kw	↑	単年	令和元年度	34	66.6	100	41	43	D	物価高騰、特に人件費の高騰が設備投資意欲を後退させ、太陽光発電設備の設置が総じて低調となり、特に既設建物への設置に顕著に表れました。		ゼロカーボン推進課
20	KPI:4-③	SDGsパートナー登録者数	者	↑	累計	令和2年度	142	260	410	312	335	A	SDGsに関連する取組を行う企業・団体等が増え、市とともに普及啓発活動を推進する意向が示されるなど、SDGsの輪が広がっていることが考えられます。		政策調整課
21	KPI:4-③	電子申請システム取扱サービス数	件	↑	単年	令和2年度	20	370	555	312	450	A	着実に実績値が上がっているため、各課へ周知を継続し、さらなる件数の増加を目指します。		情報システム課

【評価の個数】			
S	4	19%	43%
A	2	10%	
B	3	14%	
C	6	29%	43%
D	3	14%	
－	3	14%	
計	21	100%	

評価項目	
S	既に目標を達成
A	概ね目標を達成
B	目標達成に向け順調に推移
C	やや目標達成困難
D	目標達成困難